

(概要版)

# 学習への適応感を高める学び合い

ー 授業をユニバーサルデザイン化する視点に立った

ー ソーシャルスキル教育を中心として ー

長期研修員 齊藤 靖則

## 生徒指導の重点①「好ましい人間関係づくり」

小学校学習指導要領

児童相互の好ましい人間関係を育てる

群馬県教育の指針

互いを認め合う学級づくり

## 生徒指導の重点②「わかる授業の成立」

小学校学習指導要領

分かる喜びを実感できない授業は、児童にとって苦痛

生徒指導提要

「分かる授業」の必要性が増している

### 学級の実態



一人一人に十分な支援をしていきたい

子どもたちが抱える課題①

子どもたちが抱える課題②

言いたいことが話せない

「できない」と諦めてしまう

相手が傷つくことを言う

授業での集中力が続かない



人間関係がうまくいっていると  
感じるためには・・・



授業で「進んで勉強できる」「分かって楽しい」  
など感じるためには・・・

## 人間関係と学習の課題には大きな関連があります



友達と上手にかかわれる

対人関係がうまく  
いっていると感じる

認め合い  
学び合う

「進んで勉強できる」「やり方が分かる」「分かって楽しい」「次の時間もできそうだ」など  
**学習への適応感が高まる**

友達と上手にかかわることができ、学習の成果やがんばりを認め合うことができると、学習への適応感が高まると考えました。そこで、互いを認め合う態度を育て、教科の授業で生かすことにしました。

## ソーシャルスキルを身につけて授業の学び合いの場面で活用



どの子どももソーシャルスキルを活用して学習への適応感を高めるためには、子どもたちが、そのソーシャルスキルのよさや使い方を理解できるように支援をしていくことが必要です。しかし、支援が必要な子どもの多い場合、一人一人に十分な支援をしていくことが一斉指導では難しい場合もあります。そこで・・・

## 授業をユニバーサルデザイン化する視点をもつ

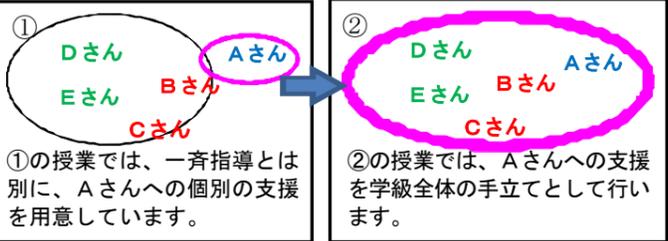
授業をユニバーサルデザイン化する？



次のページに続くー

**授業をユニバーサルデザイン化するイメージ**

Aさんは、一斉指導の他に発達障害などの理由から個別の支援を必要とする子どもです。Bさん、Cさんは、一斉指導の中でさりげない支援を必要とする子どもです。授業では三人とも過ごしにくさを感じています。



②の手立てが、Aさんだけでなく、Bさん、Cさん、さらに、一斉指導に自ら参加できるDさんをはじめとするどの子どもにも「あると便利な」役立つ支援となります。

**どの子どもにも「あると便利な」役立つ支援をふやす**

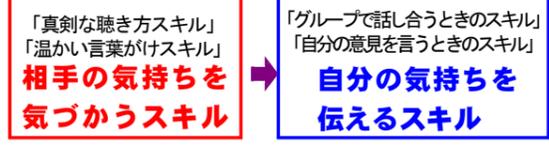
**授業のユニバーサルデザイン化**

授業をユニバーサルデザイン化する視点を持ち、ソーシャルスキル教育を実践しました。

友達と上手にかかわれない子どもだけが学んだソーシャルスキルは、学級で使えない場合があります。ソーシャルスキルは、そのスキルの大切さをお互いが理解していないと活用できません。そこで、友達と上手にかかわれない子どもに必要なソーシャルスキルを学級全体で学ぶことが、どの子どもにも学級で役立つスキルを学ぶことになるという視点に立って実践をしました。

**授業計画の段階で 授業をユニバーサルデザイン化する視点**

- ☆学ぶソーシャルスキルの選択<支援の必要な子どもが不足しているスキルを学級全体で学ぶ>
- ☆選択したソーシャルスキルを学ぶ順番<支援の必要な子どもが学びやすい順番で構成>



**授業展開の段階で 授業をユニバーサルデザイン化する視点**

- ☆「物理的環境」  
どの子どもにも分かりやすい教材や掲示物の工夫
- ☆「人的環境」  
互いを認め合う人間関係

物理的環境の例	人的環境の例
○視覚情報で伝えるワークシート等	○教師と児童の関係 「肯定的な言葉かけ」
○一文一動作の指示を書いた掲示物等	○児童と児童の関係 「ソーシャルスキルを活用した学び合い」

**授業実践①**

学級活動 帰りの会

**授業をユニバーサルデザイン化する視点に立ったソーシャルスキル教育**

↓

**互いを認め合う態度を表す**

**学級活動・帰りの会 相手の気持ちを気づかうソーシャルスキル**

**「真剣な聴き方のスキル」**

○話す人に体を向けて顔を見る。 ○話を最後まで聴く。  
○タイミングよく頷く。相づちを打つ。 ○話が終わったら自分の感想などを伝える。

授業をユニバーサルデザイン化する手立ての例  
ペアによるスキルの練習（人的環境）

ペア学習では、話したり聴いたりする相手ははっきりしているの、どの子どもも、進んでスキル練習に取り組みました。

「うん、うん。」  
「そうなんだ。」  
「へえー。」

**相手が話しやすく、真剣に聴いていることが伝わる聴き方ができました。**

**「温かい言葉かけのスキル」**

○相手を見る ○温かい言葉＝「相手の様子」＋「自分の気持ち、考え」  
○やさしい言い方 ○やさしい表情

授業をユニバーサルデザイン化する手立ての例  
スキルを絵と文字で説明（物理的環境）

子どもたちがソーシャルスキルの内容をイメージしやすくなりました。

友達によさやがんばりを認めた言葉かけができました。

**相手の立場を考えた態度を表す**

**学級活動・帰りの会 自分の気持ちを伝えるソーシャルスキル**

**「グループで話し合うときのスキル」**

○自分の番になったら話す。 ○みんなと同じくらい話す。  
○司会者が次の人に「では、～さん（君）どうぞ」と伝える。

授業をユニバーサルデザイン化する手立ての例  
グループによるスキル練習（人的環境）

四人グループでスキル練習をしたため、一人一人の子どもが話す機会を多く設けられました。

時間を分け合い、グループの全員が発言して話し合えました。

**「自分の意見を言うときのスキル」**

○Aイメージ <「私（ぼく）は～と思う。」のように、まず、自分の意見や気持ちを言う>  
○理由と質問「理由は、～だから。みんなは、どう思う？」

授業をユニバーサルデザイン化する手立ての例  
場面設定を絵と文字で説明（物理的環境）

どの子どもも、場面の状況を視覚的に理解してソーシャルスキルの練習ができました。

互いにいやな思いをしない意見の言い方ができました。

**自分の気持ちを上手に伝える態度を表す**

**授業実践②**

教科（社会科・理科）

**学んだソーシャルスキルをグループの場面で活用**

↓

**学習への適応感を高める**

**社会科「自動車をつくる工業」での学び合い**

人や環境（安全・福祉・環境）に優しい自動車づくりについて調べたことをグループで一人一人が発表しました。交代で聴き合って感想を伝えました。

＜発表者＞ハンドルにノブが付いていて、片手が不自由な人でも運転しやすい車です。

＜聴き手＞体が不自由な人でも運転できる自動車の工夫が分かりました。

＜聴き手＞ハンドルの絵もあって、発表が分かりやすかったです。

☆「**真剣な聴き方のスキル**」を使って聴き合い、発表内容をよく理解できました。  
☆友達が**真剣に聴いてくれる**ことが、進んで発表することにつながりました。  
☆発表した友達へ「**温かい言葉かけスキル**」を使い肯定的な感想を伝え合えました。

**理科「流れる水のはたらき」での学び合い**

上・中・下流の写真を見比べて気づいた違いをグループで話し合いました。司会者が進行しながら、全員が意見を伝えました。

＜司会者＞では、〇〇さん、気づいたことを言って下さい。

＜発言する子＞私は、川幅の違いに気づきました。上流が一番狭いです。みんなは、どう思う？

＜聴き手＞本当だ。上流が狭いね。

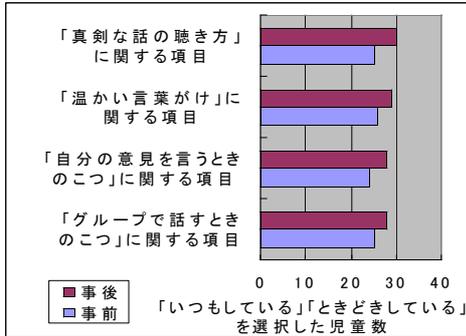
☆「**グループで話し合うときのスキル**」を使い、司会者が進行しながら一人一人が話す機会をもてました。  
☆「**自分の意見を言うときのスキル**」を使い、気づいたことを詳しく伝え合えました。  
☆「**真剣な聴き方のスキル**」が活用できているため、安心して意見が出し合えることにつながりました。  
☆友達が気づいたことに対して「**温かい言葉かけスキル**」を使い肯定的な感想を伝え合えました。

**学習への適応感が高まる**

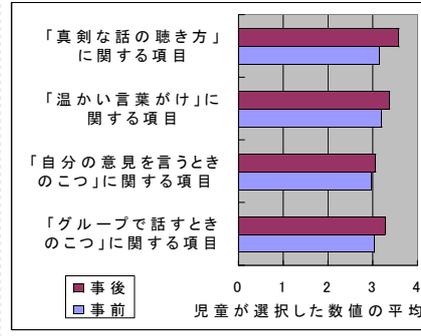
# 今回の研究から見えてきたこと

## ソーシャルスキル尺度の結果

実践に関わるソーシャルスキル活用について児童が選択した数値（「いつもしている」→4「ときどきしている」→3「あまりしていない」→2「ほとんどしていない」→1）の結果です。



グラフは、ソーシャルスキルを活用できていると感じている児童数を表しています。四項目とも事後の方が児童数が増えています。

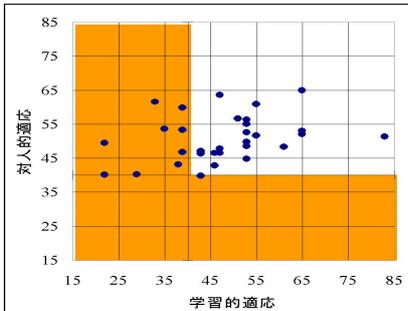


グラフは、ソーシャルスキル尺度の学級平均数値です。四項目とも事後の数値が高くなっています。

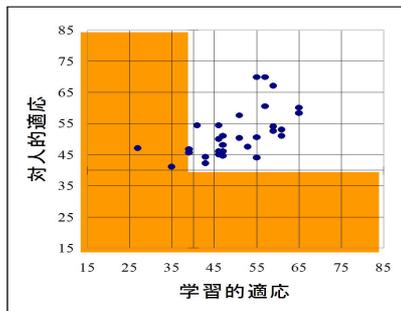
**学習したソーシャルスキルを活用できている児童が増えました。**

## 学校環境適応感尺度「アセス」の結果

縦軸が対人関係がうまくいっていると感じている程度「対人的適応」を表し、横軸が学習への適応感「学習的適応」を表している。



事前に実施したアセスの分布図



事後に実施したアセスの分布図

○対人的適応は、最も低い数値と最も高い数値の児童が高い位置になりました。

○学習的適応は、支援が必要な領域（40以下）に分布する児童数が減りました。

**対人的適応と同時に学習的適応(学習への適応感)が高まりました。**

## 学級担任の感想より(実践後)



- 月別の生活目標を「温かい言葉がけ」に決めるなど、勉強したソーシャルスキルのよさを子どもたちが実感している。
- 授業中は、教師や友達の話を聞きながら聴く子どもが多くなった。
- グループの話し合いでは、自分の意見を言える子どもが多くなった。

**学んだソーシャルスキルを授業などの場面で活用できていました。**

## 児童の感想より(教科の授業後)



- 「温かい言葉がけ」で発表の感想を言ってもらい嬉しかった。
- 「真剣な聴き方」で発表が聴けた。友達の発表から今まで知らなかったことが分かった。
- みんなで意見を出し合うと、自分が気づかなかったことも分かった。

**学んだソーシャルスキルを授業で活用し、学習への適応感が高まりました。**

## 提言

- 人的環境でも「授業のユニバーサルデザイン化」が重要です。学級での人間関係は、授業に大きく関係します。互いを認め合う関係によって「学習への適応感」が高まります。
- ソーシャルスキルは、教科の授業で活用できます。子ども達の実態に応じて必要であり、授業のねらい達成にもつながるソーシャルスキルを活用して下さい。様々な教科で活用できます。